竹の材料特性を活かした
新たな竹構造建築

滋賀県立大学 陶器浩一研究室

モノづくりを通じて、人と建築の未来を考える

4 11 15 17

ものづくり・ひとづくり・みらいづくり

建築とは“人と人とをつなぐもの”であり、そこにあるもので如何に豊かな空間を築くかと言う知恵と工夫を積み重ねた“ものづくり”の結晶です。従来見出されていなかった素材の特性を解きほぐし新たな空間の可能性を追求すること、そして、設計するだけでなくみんなで築き、その場で起こることを共有し、建築とは何かを考えることが研究室のテーマです。

■ 自然竹

● 社会活動と研究開発

①ものづくりを通じた社会活動を行うこと、②竹という素材の新たな可能性を見出すこと、を目標に、研究・実践活動を行っています。

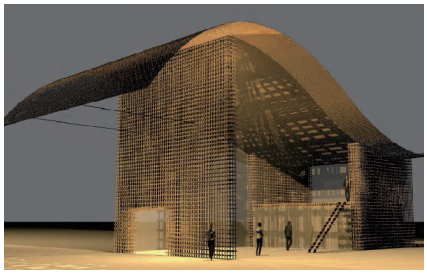
地域の方々と力を合わせながら、放置竹林を再生しつつ魅力あふれる場をつくり、竹を用いたものづくりを行うことにより、自然と共存した持続可能な地域社会の実現に向けた活動をおこなっています。プロジェクトは学生自らが企画,立案,設計,施工,維持管理を行い、地域の方々と共に実践することで、**共に学び共に成長する**こと、すなわち、ものづくりの歓びと地域, 自然愛を持つ若者を育てていることにも特徴があります。

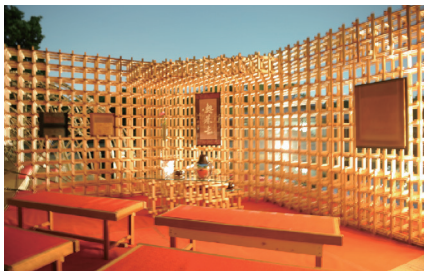
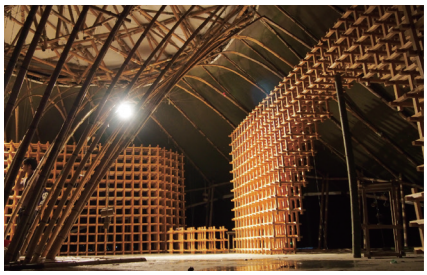
研究および実践面では、自然な竹材の構造特性およびその決定因子を明らかにし、竹の特性を活かした建築構造の開発およびその設計, 施工手法について継続的に研究を行っています。

■ 加工竹

● 新たな竹建築の提案

鉄の約1/3という高い引張強度を持つ竹の材料的特徴を活かした新たな空間の提案です。自然な竹のしなりを活かした“しなやかなでやわらかな”空間、加工した薄板材を極細材と用いた繊細な空間を提案し、実現に向けて部材や接合部の開発を行っています。



■ 三方格子

● 新しい和のかたち

金物や釘を用いず手作業のみで組むことが可能であり、解体・組立が容易で自由に空間を展開することが可能な仕組みです。単純で複雑な新しい和のかたちです。

《組み方》一定間隔に施された相欠きを1/2ずつずらして三方向に組み合わせることで組むことができ、同じシステムで連結させることで空間を構成します。

滋賀県立大学　陶器 浩一 研究室
〒522-8533　滋賀県彦根市八坂町2500
090-8375-3604　toki@ses.usp.ac.jp